

「全鍍連」 2024年 4月号 巻頭言

全鍍連 理事 岡部 憲一 (株)ハイライト 代表取締役

「2024年問題について」



新たな春の訪れを迎えるにあたり、全国鍍金工業組合連合会の皆様に心よりお慶び申し上げます。コロナ感染症 5 類移行後初めての年明けでは、1 日から能登半島地震が発生、また 2 日には羽田空港での旅客機の火災など信じられない事故が起きました。亡くなられた方に心よりご冥福をお祈り申し上げるとともに、被害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げます。

昨今の景気の状態は、自動車関係の仕事が戻りつつある中、一部メーカーでの不正問題で生産が数カ月止まり、完全に戻るまでにはいつになるのか、不安定な状態が続いております。また、半導体関係は在庫調整が続き、まだ受注が減少したまま推移しているところがあると聞いております。

そのような中、2024 年 4 月 1 日からは自動車運転業務にも、時間外労働の上限規制が適用されます。2024 年問題は、我々の製造業、特にめっき業界に対してどのような影響があるのでしょうか。

企業にとって負担になってくるのは、納期の問題と運賃の値上げだと推測します。

納期は納品スケジュールの見直しが必要になる可能性もあり、製造過程での納期短縮を求められることも考えられます。

また、運賃の値上げ分は、顧客に対して値上げ交渉を行うのか、大変難しい問題の一つになるでしょう。

一昨年からも、材料や薬品の高騰、電気料金のUP、燃料費の高止まりなどを受け、めっき単価の値上げを依頼し、また、値上げに対する費用をめっき単価とは別で請求させていただくなど、交渉を続けてまいりました。メーカーも現況はわかっているにもかかわらず、対応には時間が掛かると考えられます。

問題は多くあります。組合からの情報も参考にして、一つ一つ解決し道を切り開いていくため、解決する力もつけていく必要があります。

悪い話ばかりではありません。今年は少しずつ景気が回復していくとの情報や、半導体は在庫が底を打ち、7 月以降には回復していくとの情報もあります。

その時に対応できる様、持続可能な未来への道を模索し、環境への影響を最小限に抑えられ、品質と効率を向上させる技術やプロセスの開発を進めることです。

我々のやるべきことは、技術と環境の両面での持続可能性を確保し、業界の発展に貢献することだと思います。

全鍍連を通じ連帯感を深めることで、素晴らしい未来を共に築いていくことを心より願っております。